

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	教育委員会
	課名	スポーツ文化課
	係名	体育係
	記入者	電話(内線) 613

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]		継続		(2) 事務事業 の名称		スポーツライフ推進事業(中学校各種球技大会開催事業)				(3) 事業の 優先度		B					
(4) 総合計画での位置づけ							(6) 事業主体			市							
① 事業の区分		主要事業							(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質		一般事業費(ソフト事業)				
② 施策コード		43103		(総合計画掲載ページ 109 ページ)							会計区分		一般会計				
基本目標(政策)		4		未来を担う子どもと地域を支える市民を育むまちづくり(教育・文化)							財源区分		市単独				
基本施策		3		誰もが楽しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進							予算科目		款 10 項 6 目 1				
施策				スポーツ・レクリエーション活動環境の充実							予算書上の		中学校各種球技大会開催事業費				
施策内容				各種大会の開催							事業名称		(予算書 183 ページに掲載)				
(5) 事業期間		開始		昭和		31		年		月から		(8) 事務分類			自治事務		
		終了						年		月まで(力年)		根拠法令					

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象(だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿(意図・どのような状態になるのか)
市内中学生および近隣・近県の中学生	学校及び生徒間の相互交流を図るとともに、スポーツを通じて青少年の健全育成を図る。
(2) 手段(事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
茨城県・栃木県中学校女子バレーボール大会の開催 近隣中学校男子バレーボール大会の開催 近県中学校ソフトテニス大会の開催 近県中学校卓球大会の開催	青少年の健全育成とスポーツの普及発展を目的に昭和31年から開催された。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
例年開催している5月頃は、学校行事などが重なり日程調整が難しい時期ではあるが、一定定着もしているので、引き続き実施する。	

3. 事業コスト

行政評価 実施計画		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映	
● 予算内訳		実績額(千円)	当初予算額(千円)	計画額・見込額(千円)			
事業内容		26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	
(1) 事務事業費の コスト	女子バレーボール大会	226	249				
	男子バレーボール大会	134	200				
	男女ソフトテニス大会	147	201				
	男女卓球大会	134	216				
	合計	641	866				
	国庫支出金(千円)						
	県支出金(千円)						
財源	地方債(千円)						
	その他特定財源(千円)	324	324				
	一般財源(千円)	317	542				
	合計(千円)	641	866				
	補助・起債制度名						

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）									
指標の名称				単位	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	開催種目数	目標値	種目		6	6	6	6	
		実績(見込)値		6	6				
		目標値							
		実績(見込)値							
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	参加中学校数	目標値	校		160	160	160	160	
		実績(見込)値		162	141	160	160	160	
		達成率		101.3 %	88.1 %				
		目標値							
		実績(見込)値							
		達成率	%	%					
5. 事業評価									
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 大会の日程や内容等について、事前に打合せなどを行い大会関係者と連絡を密にし、スムーズな大会運営に努めた。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	青少年の健全育成意および生涯スポーツの振興を図るうえで重要である。また、部活動の成果を発揮する機会であり、学校教育の一環を担っている。					
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	青少年の健全育成と体力の強化を図ることが目的であり、行政が積極的に関与する事業である。					
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が一般的である。					
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	参加校1校につき2,000円の参加費を徴収しているが、近隣市町村でも参加料を徴収している場合がほとんどであり、特に問題はない。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	参加中学校はもとより、地域住民にも広く便益を提供している。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	参加者相互の交流や健全な心身の発達に寄与しており、成果は上がっている。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である						
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 大会を通じて、参加中学校相互の交流と体力増進および健全な心身の発達に寄与するとともに、日頃の練習の成果を発揮する場として、事業の意図は十分に達成されている。前年度よりは改善されたが種目によっては、まだ終了時刻が遅くなる種目もあるので、大会運営の方法を検討する必要がある。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 大会運営について、市内顧問、体協専門部、事務局で協議し、改善を図る。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		改善・改革しながら継続（成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減）			大会を通じて参加中学校相互の交流と体力の増進、健全な心身の発達に寄与しており、今後も継続する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う					上記評価のとおり。				